

(社)日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第90回 レベル1PRA分科会 議事録

1. 日時 第90回：2018年12月11日（火）13:30～16:30

2. 場所 関西電力東京支社 会議室3

3. 出席者

(出席委員) 高田主査, 桐本副主査, 橋本幹事, 岡野, 石田, 岩谷, 喜多, 小谷,
日高 (佐藤 (輝) 代理), 黒岩, 谷口, 根岸 (小森代理) (12名)
(常時参加者) 濱口, 友澤, 池田 (芳), 塩田, 藤崎候補 (5名)

(敬称略)

4. 配布資料

P4SC-90-1 第89回L1PRA分科会議事録(案)

P4SC-90-2 人事について

P4SC-90-3 L1PRA標準統合性能化案コメント対応一覧

P4SC-90-4 検査制度の見直しに関するワーキンググループ資料

P4SC-90-5 2018年10月ASME/ANS JCNRM参加報告

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員12名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。
また, 配布された資料が確認された。

(2) 第89回議事録の確認

資料P4SC-90-1を用いて第89回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡いただくこととし, 特になければそのまま正式版とすることとなった。

(3) 人事について

資料P4SC-90-2により, 野村常時参加者(関西電力)の解除が報告され, 新たに藤崎常時参加者(関西電力)の登録が承認された。

(4) L1PRA標準統合性能化・中間報告について

資料P4SC-90-3により, L1PRA標準統合性能化案のリスク専門部会・標準委員会への中間報告状況について報告があった。主な議論は次のとおり。

- ・ 専門部会での標準の目的に関する議論について
 - － ROP などでの使用とリスク情報を高度に使用する意思決定では、求められる PRA のグレードも異なってくる。
 - － これらの位置付け・目的により米国のようなカテゴリ化をすることも考えられる。これにより単純な〇×となることも回避できる。
 - － 米国でも実 PRA はカテゴリⅡとⅠの間にあり、ピアレビューなどを通じてカテゴリⅡに向け整備していく動機としている。米国での PRA のグレードとその利用に関する関係などが判ると参考になる。
 - － かつて国内では、非適合となることを出来るだけ回避するため、標準の要求としてしは最小限とすることも議論された。今後は PRA をどのように利用していくか、それに対してどのような PRA が求められるのかステークホルダー間のコンセンサスも必要。
 - － 今回の議論を踏まえ、カテゴリ分けにより規定のどこが異なってくるかなども含めて継続的に検討する。
- ・ 標準委員会での議論について
 - － 本件以外にも専門部会で英文版の整備が進められてきており、標準体系の中での英文版の位置付けを整理していく必要がある。標準としては邦文になるので、技術レポートに位置づけることなどが考えられる。
 - － 標準体系における「指針」には、現状で附属書や技術レポートとしている部分から該当部分を集約することも可能と考えられる。標準の中で「指針」をどのように活用できるかは継続して検討する。
- ・ 用語の整理について
 - － アンアベイラビリティとアンリライアビリティは、今後 MSPI などの議論が進めば使い分けが整理される可能性はある。このような関連動向もフォローしていく。
 - － 新たに用語として定義が必要になるものがあれば、定義のあり方とともに議論する。

(5) 関連する動向について

資料 P4SC-90-4 及び資料 P4SC-90-5 により、PRA に関する国内外の動向について報告があった。PRA の高度化に関して産業界と専門部会とで意見交換していくこととなっており、情報が入手できれば日米のギャップがどこに由来するかなど分科会でも検討していく予定。

(6) 原子力学会倫理規程等講習

学会倫理規程等の今年度講習を実施した。欠席の委員には別途自習頂く。

(7) スケジュール, その他

次回分科会は 2 月 1 日 PM の予定。また、今年度の講習会については、定例の運転時 LIPRA を対象として 3/11 の週もしくは 3/18 の週で調整することとなった。なお、この間に転載許諾が進み停止時改定版が発行されれば適宜調整とする。

以上